会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（松浪一丁目自治会）
2　日時	平成 30 年 7 月 14 日（土）11：00～12：00
3　場所	小和田公民館
4　出席者	（資源循環課）原田副主査、小田副主査 （環境事業センター）尾坂主幹 （松浪一丁目自治会）参加人数：26 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●今後経費が増大していった場合、資源物に関する補助金の取扱はどうなるのか。 →他市では廃止をしている事例もある。本市における補助金の目的は資源物の適正な分別を推進することである。廃止するか否かということについては決まっていない。今後どのような方法で資源物の分別を推進していくのか、補助金のあり方と併せて検討をしていく。 ●ごみの排出量が減れば、経費は減るのか。 →短期的には効果は表われにくいが、長期的に見て相当量のごみが減れば、その量に応じて収集車両の減少や整備が必要な施設の規模を縮小できると言ったことにつながる。 ●茅ヶ崎市の一人当たりのごみ処理経費が国や県より高くなっているが、要因は何か。 →各市町村でごみの処理方法や資源化の品目が異なるため、一概に比較はできないが、本市においては収集を直営で実施しているということが要因のひとつであると考えられる。 ●将来的に委託化はしないのか。 →現在、粗大ごみ処理施設の管理運営について、すでに委託化している。今後においてもより効率的な手法を検討していく。 ●最終処分場の使用期限後、市外での候補地はどこになるのか。 →基本的に本市から出たごみを他市町村の最終処分場に積極的に埋め立てるということは望ましくない。できるだけ再資源化をして、コンクリートや路盤材にするということが必要となるため、多くの経費が掛かってくる。 ●そのためには再資源化を行う施設の整備が必要になるのか。 →市内に新たに整備するということではなく、すでにある市外の再資源化施設において、処理をお願いすることとなる。 ●市の考え方としては、有料化に向けて動いているのか。

	→現在検討をしている段階である。本市が抱える課題と同様の課題を解決するために、他市では有料化に踏み切った事例もあることから、有料化についてはごみの減量を進めるために効果的な施策であるということは認識している。 ●藤沢市では赤字になっているということであるが、戸別収集をやらなければ赤字にはならないのか。 →そのとおりである。しかしながら、有料化だけを実施した場合は、市民に特別なメリットはなく、負担を求めるだけになってしまう。ごみが減って、市内の環境がよくなったり、将来にわたってごみ処理が継続できるようになったりするということは、市民生活にとって重要であると思うが、家計負担が増えるというデメリットがあり、理解をいただくのは難しいと思われる。 ●福祉や子育ての経費が増える中で、全市的に予算が厳しいように感じられる。 →施策を精査する中で、各部署必要な予算を確保できるよう動いている。限られた予算の中で、どの部署も十分な額を確保するのは難しい状況にある。 ●分別がなかなか進んでいないように感じる。 →ご指摘のとおり、様々な手法を用い啓発を続けているが、なかなか浸透しないというのが最大の課題であると認識している。 ●小学生の頃から、継続的に分別を訴えかけていくということが大事である。 以上